

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

韻文をよむ (俳句・短歌)

ポイント1

俳句や歌を鑑賞するときに、俳句や歌の中のポイントとなる部分を見つけだすと、その歌の核心に触れることができる。そのポイントを「起承転結」の「転」といったり、「序破急」の「破」といったりします。

序破急……「序」は導入部。「破」は細かな変化を含むゆつくりした展開部。「急」は動きの早い終結部。

【例】

大阪本町糸屋の娘姉は十八妹は十六諸国大名は弓矢で殺す糸屋の娘は目で殺す

この歌を冒頭から読んでいった場合、

「ちよつと異質だな」

「ちよつと雰囲気が違うな」

「次に来るべきものの予想を裏切ってるな」

と思ったところが「転」である。さて、どこでしょう。

この部分の前と、この部分では何がどう違いますか？

いわゆる「転」の後に、その「転」の種明かしのようなのがあれば、「起承転結」というように、4つの部分に分かれます。

「転」の部分でその後すぐに終わっている場合は、「序破急（じよはきゆう）」といって、3つの部分に分かれることになります。

ポイント2

俳句や歌をよんでいて、「なんだかな？」と思ったところが「転」（破）です。

見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける

素性法師

これをよんだ場合、「こきまぜて」って、なんだろ？と思いました。なんだか柳桜や、春の雰囲気と違うような、「雑な」言葉だと思いました。ということとで、「あれ？」と思ったところがポイントです。これが「転」だと考えて、「転」の前を「起」「承」にわけて、後を「結」にすればよいのです。

よって、次のようになります。

起 承 転 結

見渡せば／柳桜を／こきまぜて／都ぞ春の錦なりける

〔説明〕

起……「見渡す」という動作をする。

承……「見渡す」と、「柳」の緑と「桜」の桃色が目にはいる。（「起」を承ける）

転……それがぐちゃぐちゃに混ざっている（「柳」「桜」の雰囲気と「ぐちゃぐちゃ」という語の違和感）。

結……今都は春の錦（金糸・銀糸など種々の色糸で、いろいろな模様を織り出した、厚地の美しい絹織物）のような状態だなあ。（種明かし）

教科書の俳句から一つ選び、今までのことをふまえて鑑賞し、ノートに書いてみよう。

実践

俳句を作るときは、「おや？」と思わせる「核」を作ることにより、読み手に言いたいことが伝わる。「おや？」と思わせ、そこに意識を留めさせ、考えさせ、「なるほど！」と思わせると、句が生きてくる。

以上のことをふまえて、二句以内で俳句を作り、専用用紙に記入しなさい。